

地域活性化伝道師プロフィール		分野	地域産業・イノベーション・農商工連携		農・林・水産業	
			地域医療・福祉・介護、教育		観光・交流	
			地域コミュニティ・集落再生		環境	
			地域交通・情報通信		まちづくり	◎
ふりがな		たかぎ こすも				
氏名		高木 超				
所属	名称	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科				
	役職	特任助教				
連絡	住所	〒				
						(職場)
	連絡先	E-mail cosmo[アットマーク]sfc.keio.ac.jp				
		TEL		FAX		
連絡方法		E-Mailでお願いします				
略歴		NPO 等を経て、2012 年から神奈川県大和市役所の職員として住民協働等を担当。その間、明治大学公共政策大学院を修了。17 年 9 月に退職し、渡米。クレアモント評価センター・ニューヨークの研究生として「自治体における SDGs のローカライズ」に関する研究を行うほか、国連訓練調査研究所(UNITAR)とクレアモント大学院大学が共催する「SDGs と評価に関するリーダーシップ研修」を修了。19 年 4 月から現職。総務省地域力創造アドバイザー、内閣府地域活性化伝道師、鎌倉市 SDGs 推進アドバイザー、亀岡市参与(SDGs アドバイザー)、川崎市 SDGs 推進アドバイザー、鎌倉市総合計画審議会委員(会長)、品川区政策評価委員会委員(副委員長)、大田区 SDGs 推進会議委員(副会長)、武蔵野大学非常勤講師を兼務。19 年 9 月から 3 年間、国連大学サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティングユニット研究員を兼務。著書に『SDGs ×自治体 実践ガイドブック 現場で活かせる知識と手法』(学芸出版社)、『まちの未来を描く！自治体の SDGs』(学陽書房)、『SDGs×公民連携 先進地域に学ぶ課題解決のデザイン』(学芸出版社)など。日本評価学会認定評価士。				
著作・論文等		【主な学術論文】高木超(2023)「SDGs の主流化に向けた先行自治体の政策過程分析ー北海道下川町の総合計画策定を事例としてー」『自治体学』36(2), pp64-68, 自治体学会。 【主な著書(単著)】『SDGs ×自治体 実践ガイドブック 現場で活かせる知識と手法』(学芸出版社)など。				
取組概要		自治体職員だった経験をもとに、自治体でのアドバイザー業務や、全国各地での講演、専門誌への寄稿・連載、実践的なノウハウをまとめた書籍の出版等を通じて「持続可能な開発目標(SDGs)を活用したまちづくり」を進めています。具体的には、自治体において各種計画へのSDGsの反映を行う際の検討や、SDGsの活用に関する行政職員研修、市民向けの講演・ワークショップの企画・運営等を行っています。				

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

登録期間 令和6年10月1日～令和7年9月30日

メッセージ	世界規模の課題が反映され、統合的な解決が求められる「持続可能な開発目標(SDGs)」は、これまで自治体に取り組んできたことを整理できる枠組みであると同時に、従来は認識していなかった課題を顕在化させ、新たな解決策の検討を可能にするツールでもあります。しかし、自治体や地域からは、SDGs への「対応」に追われ、どのように「活用」すれば良いか悩んでいるという声も聞こえます。そこで、自治体における SDGs の活用に係る体系的な手法とアイデアを提供しながら、持続可能なまちづくりの実現に向け、地域住民や自治体職員の皆さまとともに解決策を考えます。		
関連ホームページ	https://www.cosmo-takagi.com/	活動エリア	全国

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。